

コロナの外出自粛で産後ママは孤立し産後うつの危険も！


## 対面でもLINEでも相談できる『いつでも産後ケア』開始

コロナの影響で外出できず子育ての悩みを一人で抱え込んでいる新米ママのためのサービスです。

5月1日（金）、岡崎の産後ケアハウス『ははのわ しほ助産院（院長・野田志保／岡崎市井内町）』は、新生児を持つ産後ママを対象に新サービス『いつでも産後ケア』を開始します。同サービスは、産後ママが対面でもLINEなどのオンラインでも気軽にいつでも子育てについて相談できるようにするもの。新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で外出自粛が強いられ、産後間もないママが通常よりも子育ての悩みを一人で相談しにくい状況がつづいており、産後うつや虐待なども懸念されます。孤立したママや子どもの命を守り、不安や孤独をやわらげるためにと考案いたしました。

繋がって安心  
会えて安心

たくさんオンラインで相談が始まっているけど、ママは会えないと不安。地元のことをわかっていない人が相談を受けないと答えられないこともある。不安が消えないこともある。だから、会える助産師と相談できて、ちょっとしたことはラインで聞ける。オンラインもオフラインも、つながる助産師。




### ■背景／新型コロナの影響で、産後ママが子育てコミュニティへの参加や相談まで自粛し、孤立。

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のために外出自粛モード
- ・本当は必要不可欠な子育てコミュニティへの参加や子育ての相談まで「不要不急」とし、自粛傾向。
- ・ワンオペ育児でただでさえ一人で抱え込みがちな子育ての悩みが、コロナにより余計に相談しにくくなっている
- ・休園・休校・外出自粛により家庭内での虐待やDVの増加も懸念されている
- ・子育て世代の親は多くが60代以上。新型コロナウイルス感染症が重症化する世代と重なることから両親へ子どもを会わせたり預けたりすることにも二の足を踏む方が多い
- ・現在の当院の利用者からは「私が倒れたらこの子はどうなるんですか？」と不安な声が多数届いている

### ■概要／対面でもLINEでもいつでも子育ての悩みを相談できる『いつでも産後ケア』

- ・外出しなくても気軽に子育て相談をしてもらえるように新サービスを開始。いつでも、何度でもLINEで相談が可能
- ・必要に応じて対面でも相談可（感染対策を万全にし、予約制で1回1組限定で実施）

<サービス概要>

名称：いつでも産後ケア 3ヶ月コース  
 内容：月1回の面談とLINE相談  
 金額：初回相談料2000円 月額5000円  
 ※5月は初回相談料が無料になる  
 『55（ゴーゴー）キャンペーン』も実施



※LINEでの相談はいつでも送信いただけますが、返信は24時間以内にいたします。（即時返信ではありません）

※次のページに事業者・院長の概要を記載しています。

▼（参考）産後うつは 11 人に 1 人。虐待死 0 歳が 5 割

- ・ 厚生労働省 2018 年「児童虐待による死亡事例の推移（児童数）」報告によると、過去 14 年の中で、心中以外の虐待死は 0 歳が最も多く、47.5%。加害者は実母が 55.6%。「育児不安や育児負担感」「産後うつ、育児ノイローゼ」などの理由も挙げられている

<https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000361196.pdf>

また 2014 年「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について」の報告では、虐待死の中には、うつやマタニティブルーズを理由に上げるケースもある。

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000058559.pdf>

- ・ 2017 年、2018 年の 2 年間で産後一年未満の母親の自殺は 92 人。  
[https://www3.nhk.or.jp/news/web\\_tokushu/2018\\_0914.html](https://www3.nhk.or.jp/news/web_tokushu/2018_0914.html)
- ・ 2013 年の厚生労働省の発表によると、11 人に 1 人は産後うつであり、産後うつ症状に近い症状を持つ人はさらに多くいることが推測できる。

■事業者概要／産後ケアハウス ははのわ しほ助産院

産後直後から 3 ヶ月頃までの新生児を持つ産後ママを中心に、子育て中のお母さんをケアするセンターです。日帰りを中心とし、沐浴の仕方、お母さんの体調管理、母乳育児の相談など、子育てのサポートをします。核家族化が進むなかで親類をはじめサポートを受けられないお母さんが増えているなかで、お母さんの育児に少しでも寄り添いたいと考えています。

<院長・助産師>野田志保（写真）



助産師歴 20 年。岡崎市民病院にて長年、妊婦・育児相談担当。自身も男の子 3 人の母で一人目の妊娠・出産に苦勞したことから、より多くのママに寄り添いたいと感じるように。育児相談を担当するなかで産後ケアの大事さを痛感し『産後ケアハウスははのわ しほ助産院』を開業。

新型コロナ感染拡大防止の影響で通常よりも孤独を感じている子育てママを支えるサービスです。  
貴紙の取材を賜りますようお願いいたします。

問い合わせ先 0564-58-1567 担当・野田

岡崎ビジネスサポートセンターOKa-Biz（岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 2F）

Tel: 0564-26-2231 URL: <http://www.oka-biz.net> 担当: 高嶋、松田、武田（水・日曜日を除く / 9:30~17:00）